

Ⅱ. 調査結果の概要

Ⅱ. 調査結果の概要

1. 家族との関係・家庭での生活

- (1) 家庭での会話の内容は、「学校のできごと」が最も多く、小5で86%、中2で76%あった。「勉強や塾のこと」が40%前後であるのに対して、「将来の進路や職業」については、20%前後となっている。
- (2) 父母は話を聞いてくれるかは、6段階評価で「とてもよく聞いてくれる」「わりと聞いてくれる」（「話を聞いてもらえる群」）が、小5で89%、中2で80%あった。
- (3) 家のことで困っていることや嫌なことは、「ある」が小5で18%、中2で31%あった。
- (4) 塾や習い事は、小5で通っていない子どもは12%、中2で29%いた。小5で週5日以上通っている子どもが26%、中2で週4日以上通っている子どもが18%いた。
- (5) 就寝時間については、小5で11時半以降が16%、中2で12時半以降が19%あり、「昼間に眠たかった」ことが「ぜんぜんない」子どもは小5で36%、中2で10%であった。
- (6) 朝食を毎日食べる子どもは小5で88%、中2で80%であり、就寝時間が遅い子どもは、その比率が低くなっている。
- (7) 毎日の生活の忙しさ（中2）については、6段階評価で「とても忙しい」「わりと忙しい」が32%で、塾や習い事の日数、部活動の日数が多い子どもに、忙しいと感じている割合が高かった。
- (8) インターネットの利用については、「友達とのメール」が中2で64%（女子は79%）、「知らない人とのメール」は、小5で2%、中2で9%（女子は12%）あった。インターネットを勉強や家族との連絡以外に利用している子どもに、「毎日の生活が忙しい」と感じている割合が高かった。
- (9) 放課後や休日に一緒に遊ぶ友達は、「いる」が小5で90%、中2で93%であった。

2. 学校生活

- (1) 部（クラブ）活動は入っている子どもが小5で63%、中2で91%、日数は週6日以上が小5で4%、中2で67%あった。部活動が「とても楽しい」「わりと楽しい」（6段階評価）は小5で83%、中2で69%あった。中2では、部活動の日数が多い子どもに忙しいと感じている割合が高かったが、部活動が楽しいと感じている子どもは多かった。
- (2) 学校に行きたくないと思ったことが「いつもある」「ときどきある」（6段階評価）は、小5で14%、中2で19%あり、そのうち前年度までも同様であった子どもは6割あった。「行きたくない理由」で最も多いのは、「体の疲れや睡眠不足」であった。
- (3) 学校に行けた理由は、「学校は休んではいけないものだと思ったから」が最も多かった（小577%、中240%）。「心配してくれる友達がいたから」「勉強がわからなくなると困ると思ったから」は女子に多く、「なんとなく」は男子に多かった。

3. 悩み

- (1) 悩み事や心配事が「ある」は小5で45%、中2は66%で、「勉強や進学のこと」が最も多かった。

- (2) 相談相手で最も多いのは、小5では「お母さん」(67%)、中2では「学校の友達」(60%)であった。「だれにも相談しない」は、小5で19%、中2で21%であり、「父母に話を聞いてもらえない」子どもに多くなっている。

4. 地域との関係

- (1) 「家族で付き合いのある近所の人」が「いる」は小5で87%、中2で80%であり、この子どもたちの中に、「近所の人からほめられたり叱られたりすること」が「ある」の比率が高くなっている。
- (2) 地域で参加してみたい活動は、小5、中2ともに「スポーツに関する活動」が最も多かった。

5. 将来への意識

- (1) 夢やいきがいが「ある」は小5で90%、中2で79%で、その内容としては、小5では「自分の個性や才能を活かしたい」「好きなことをしながら生活したい」「思いやりのあるやさしい人になりたい」がそれぞれ20%ほどと多く、中2では、「好きなことをしながら生活したい」(33%)、「自分の個性や才能を活かしたい」(19%)が多かった。

夢やいきがいが実現する可能性(6段階評価)は、「わりとある」「とてもある」が、小5で36%、中2で29%であった。「父母に話を聞いてもらえない」子どもより「話を聞いてもらえる」子どもの方に、その可能性が「ある」(とても、わりと、少し)の比率が高かった。

- (2) つきたい職業が「ある」は小5で76%、中2で65%であり、それが実現する可能性(6段階評価)が「わりとある」「とてもある」は、小5で35%、中2で22%であった。

つきたい職業が実現する可能性(6段階評価)は、「わりとある」「とてもある」が、小5で35%、中2で22%であった。「父母に話を聞いてもらえない」子どもより「話を聞いてもらえる」子どもの方に、その可能性が「ある」(とても、わりと、少し)の比率が高かった。

- (3) 自分の将来について「明るい」「とても思う」「わりと思う」(6段階評価)は、小5で57%、中2で39%あった。「父母に話を聞いてもらえる」子ども、「家族で付き合いのある近所の人がある」子どもの方に、「明るいと思う」(少し、わりと、とても)割合が高かった。

6. 心身の健康状態

- (1) 心身の健康度・生活の満足度を表すQOL得点は、小5より中2の方が低く、中2では男子より女子の方が低かった。

- (2) 就寝時間が遅い子ども、睡眠時間が短い子どもでは、心身の健康・満足度(QOL得点)が低かった。

- (3) 朝食を毎日食べていない子どもの心身の健康・満足度(QOL得点)は低かった。

- (4) 「毎日の生活が忙しい」と感じている子どもの心身の健康・満足度(QOL得点)は、<身体的健康>、<情緒的 Well-being>、<家族>においては低かったが、<自尊感情>、<友達>、<学校>においては「一般群」との差が認められなかった。

- (5) 「父母に話を聞いてもらえない」子どもの心身の健康・満足度（QOL得点）は低かった。
- (6) 「家族で付き合いのある近所の人がない」子どもの心身の健康・満足度（QOL得点）は低かった。
- (7) 「だれかに怒りをぶつきたいと思ったこと」は、「悩みがある」子ども、「将来が明るいと思わない」子ども、「家で嫌なことがある」子ども、「話を聞いてもらえない」子ども、「一緒に遊ぶ友達がない子ども」にその頻度が多かった。

7. 不登校意識に関連する要因

- (1) 「不登校意識群」（学校に行きたくないと思うことが「いつもある」「ときどきある」）の心身の健康・満足度（QOL得点）は「一般群」より低く、とくに中2で自尊感情が低かった。
- (2) 「不登校意識群」には、「イライラすること」や「だれかに怒りをぶつきたいと思ったこと」、「何もやる気がしないこと」、「何かに集中できないこと」がある子どもの割合が「一般群」より高かった。
- (3) 「不登校意識群」には、**就寝時間が遅い**子どもの割合が「一般群」より高く、「**昼間に眠たかったこと**」がある子どもの割合も高かった。
- (4) 「不登校意識群」には、**朝食を毎日食べない**子どもの割合が「一般群」より高かった。
- (5) 「不登校意識群」には、「**家で嫌なことがある**」子ども、「**話を聞いてもらえない**」子どもの割合が「一般群」より高かった。
- (6) 「不登校意識群」には、「**一緒に遊ぶ友達がない**」子ども、「**知らない人とメールをする**」子どもの割合が「一般群」より高かった。
- (7) 「不登校意識群」には、「**部活動が楽しくない**」子どもの割合が「一般群」より高かった。
- (8) 「不登校意識群」には、「**悩み事や心配事がある**」子ども、「**困ったことや悩み事を相談しない**」子どもの割合が「一般群」より高かった。
- (9) 「不登校意識群」には、「**夢やいきがいが実現する可能性がない**」と思っている子ども、「**つきたい職業が実現する可能性がない**」と思っている子ども、「**自分の将来が明るくない**」と思っている子どもの割合が「一般群」より高かった。
- (10) 「不登校意識群」には、「**家族で付き合いのある近所の人がない**」子どもの割合が「一般群」より高かった。

8. 地域に望むこと

自分の住んでいる地域に望むことは、「思いっきり遊べる公園などを増やしてほしい」、「家族で遊びに行ける場所を増やしてほしい」、「地域の環境を安全にしてほしい」、「友達やいろいろな人と交流でき、居場所となる施設を増やしてほしい」が多かった。「じっくり話を聞いてくれるおとながいてほしい」は、「話を聞いてもらえない」子ども、「困ったことや悩み事を相談しない」子ども、「不登校意識群」の方にその要望が多かった。

9. 考察

父母に話を聞いてもらえない子どもは、心身の健康・生活の満足度は低く、自分の将来についても否定的にとらえる傾向があり、悩み事があっても相談しない割合が高かった。

学校に行きたくないことが「いつもある」「ときどきある」子どもは、心身の健康度・生活の満足度は低く、とくに中2で自尊感情が低かった。自分の将来についても否定的にとらえる傾向があった。また、そのような子どもには、「父母に話を聞いてもらえない」、「悩みや心配事がある」、「困ったことや悩み事を相談しない」、「家族で付き合いのある近所の人がない」比率が高かった。

子どもの生活実態や意識には、多様な要因が相互に関連しあっており、1つの要因だけを取り出して論じることはできないが、子どもが「父母に話を聞いてもらえているかどうか」は、以上のように多くの要因と関連しており、子どもの発達・自立にとってとくに重要なことだと考えられる。それとともに、家庭だけではなく、地域でも子どもの話を聞いてくれる人が必要とされている。「家族で付き合いのある近所の人がある」子どもたちに、近所の人からほめられたり叱られたりすることが多くなっていることから、地域でのつながりをつくることによって、子どもが話を聞いてもらったり、認められたりする機会が増えると考えられる。